

## ◎基本目標4 みんなで考え行動するまち

### ○基本施策4-1 環境教育・環境学習の推進

#### ●施策4-1-1 自然・環境学習関連施設の事業の推進

【環境指標】 (評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善)

指 標	平成 26 年度 基準	平成 30 年度 実績	令和元年度 現状・評価	令和 2 年度 目標	担当課
自然環境学習に関する 行事等の年間実施状況 ※	21 回 466 人	24 回 551 人	23 回 473 人 評価：▲	25 回 550 人	根本山自然 観察センター
自然環境教育に係る年間の 学校等団体利用状況 ※	56 団体 2,200 人	54 団体 1,887 人	42 団体 1,766 人 評価：▲	70 団体 2,400 人	鬼怒水辺観 察センター

※ 根本山自然観察センターと鬼怒水辺観察センターの両施設における実施・利用状況

#### 【施策の展開状況】

・根本山自然観察センター、鬼怒水辺観察センターでは、施設区域の森林や水辺環境を保全し、その自然環境を活用した自然体験教室の開催や展示等により環境学習を推進します。

- 根本山自然観察センターでは、里山の生き物観察や調査、自然の恵みを素材に使ったクラフトづくりなど、一年を通して里山の自然に親しむ「しぜん体験教室」を21回開催し、延べ453人の参加がありました。また、学校等の団体の利用は、32団体1,233人ありました。
- 鬼怒水辺観察センターでは、水辺の生き物とふれあう「鬼怒水辺ふれあい観察会」を2回開催し、延べ20人の参加がありました。また、学校等の団体の利用は、10団体533人ありました。

・自然教育センターでは、市内小中学校の児童生徒が、鬼怒川河川敷の自然を利用した集団宿泊体験活動を通して、河川の環境学習を推進します。

- 市内小学校3・4・6年生2,055名と中学校1・2年生1,466名が、集団宿泊を行いました。

・科学教育センターでは、小中学校の観察実験学習や市民の科学体験教室等の催しを通して、地球環境やエネルギーに関する学習を推進します。

- 市内小学校3・4・5・6年生と中学校1・2・3年生が、年に2回、理科学習施設として延べ10,089名が利用しました。(特別支援学級児童・生徒を含む)

・自然環境の保全のための重要地域について、学習できる資料整備を図ります。

- 平成28年2月に「第2次真岡市動植物実態調査報告書」を作成し、自然環境の保全を図るうえでの4つの「重要配慮地域」と4つの「配慮地域」を選定しました。また、普及版として作成したパンフレットを市役所内に配架しました。

・その他 ● にのみや野外活動センターは、鬼怒川に隣接した自然環境を生かし、野外活動体験をとおして自然・環境への理解を深める場となっています。公民館主催の市民講座(親子でデイキャンプ)の開催や育成会活動のキャンプが実施されています。令和元年度は、中学生以下557名、一般868名、合計1,425名(うち宿泊者365名)の利用がありました。

● 水処理センターは、快適な生活環境の確保と河川の水質汚濁防止を目的として建設されました。令和元年度には、市内の小学4年児童578名が社会科見学に訪れ、水処理センターの役割や水の循環利用などの環境について学びました。

V. 根本山自然観察センター 令和元年度行事内容 (21回開催、参加延べ人数453人)

開催日	行事名	参加人数
4月27日	丸太切り体験	12名
4月28日	丸太切り体験	3名
4月29日	丸太切り体験	19名
4月29日	水辺の生き物をすくってみよう in 鬼怒水辺観察センター	27名
4月30日	丸太切り体験	6名
5月1日	丸太切り体験	9名
5月2日	丸太切り体験	21名
6月8日	草むら探検	15名
7月11日	オオムラサキを観察しよう	23名
7月21日	夜の里山探検	33名
8月11日	タマムシを見に行こう	33名
9月15日	虫とり名人になろう	30名
9月28日	野の花で生け花をしよう	22名
11月9日	秋の木の実やタネを食べてみよう	23名
12月1日	マツボックリでクリスマスリースを作ろう	24名
12月14日	落ち葉プールを作って遊ぼう	28名
12月22日	干支ネズミを作って飾ろう	27名
1月11日	根本山へ柴刈に行こう	30名
1月19日	カブトムシのすみかづくり	30名
2月2日	小枝でおひなさまを作って飾ろう	27名
2月20日	おとなのクラフト 木のパズルづくり	11名

W. 鬼怒水辺観察センター 令和元年度行事内容 (2回開催、参加延べ人数20人)

開催日	行事名	参加人数
6月23日	カイツブリの親子を見よう	12名
10月6日	赤トンボをつかまえよう	8名

## X. 自然教育センター 集団宿泊プログラム例

1. 目標・活動内容 …各校で設定
2. 教育課程上の位置付け …学校行事・総合的な学習の時間・各教科
3. 日程

	第1日	第2日	第3日	第4日
午前	入所式 オリエンテーション	ふれあい活動 ・高齢者との ふれあい活動等	創作活動 ・野鳥ポスター作り等	自然観察活動 ・野鳥観察等
午後	炊さん活動 ・野外炊さん	自然体験活動 ・いかだ作り	自然体験活動 ・いかだ遊び	全体振り返り 退所式
夜	自由交歓 1日の振り返り	キャンプファイヤー練習 1日の振り返り	自然体験活動 ・キャンプファイヤー 1日の振り返り	

## Y. 科学教育センター 令和元年度授業内容

学年	学習	内容
小学校3年生	「こん虫のかんさつ」	こん虫の体のつくり・こん虫の育ち
小学校4年生	「電気で明かりをつけよう」	電気回路、電気を通すもの・通さないもの
小学校5年生	「顕微鏡の使い方」	水中の小さな生物の観察
小学校6年生	「大地のつくりと変化」	真岡市の地層からわかること
中学校1年生	「大地が火をふく」	地震・火山・化石、地殻変動
中学校2年生	「動物のなかま」	動物の観察と分類
中学校3年生	「生物の成長とふえ方」	生物の成長・増え方、遺伝

事業名	内容
夏休み特別事業「市民の科学体験教室」	塩化ナトリウムの性質を実験により探求したり、 空気のもつ性質を遊びながら学ぶ



自然教育センターでの活動



科学教育センターでの実験

## ○基本施策 4-1 環境教育・環境学習の推進

### ●施策 4-1-2 環境学習の様々な機会の提供と支援

【環境指標】 (評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善)

指 標	平成 26 年度 基準	平成 30 年度 実績	令和元年度 現状・評価	令和 2 年度 目標	担当課
ごみ減量座談会の参加者数	3,632 人	5,668 人	2,934 人 評価：▲	4,000 人	環境課
芳賀地区エコステーション 施設見学者数	3,079 人	4,551 人	3,442 人 評価：◎	3,200 人	

#### 【施策の展開状況】

- ・ごみ減量等の地域座談会を開催し、ごみ減量及び資源の循環についての理解を深めます。
  - 施策 1-1-1 参照
- ・芳賀地区エコステーションでは、施設見学を通して、ごみの減量化や 3R についての環境学習を推進します。
  - 令和元年度は、59 団体延べ 3,442 名の施設見学者や体験教室の参加者に対し、施設の PR に併せて環境学習を推進しました。  
施設見学者内訳 市内：32 団体 1,183 名、市外：27 団体 913 名  
残り 1,346 名については、再生品販売会や夏休み環境体験ウィークの来場者のため市内・市外は不明
- ・地球温暖化防止に関する学習会などを行います。
  - もおか環境パートナーシップ会議と連携し、地球温暖化防止をテーマに環境学習会を 2 回開催しました。また、環境学習 出前講座も実施し、12 校 858 名の生徒に対して地球温暖化防止等をテーマにした授業を開催しました。
- ・学校の各教科・課外活動や総合的な学習の時間において、必要に応じて環境学習の協力を行います。
  - 小・中学校では、「理科」や「総合的な学習の時間」等で、動植物の観察や調査、環境問題等に関する学習を行っています。また、小学 4 年生では、社会科の中で使用する社会科副読本「わたしたちの真岡市」を通して暮らしの中でのごみ問題や水の関わりについて学習しています。そのほか、全小学校（14 校）を対象として、子供たちのアグリ体験学習（農業体験学習）を実施しました。
  - 大内東小学校と真岡西中学校では、学校林を活用し、総合的な学習の時間に自然観察や保全活動に取り組んでいます。
  - 各保育所では、花などの植物や農作物を育て、収穫した作物を調理したり、メダカやダンゴムシなどの小動物とのふれあい体験を実施しました。
- ・こどもエコクラブの活動を支援します。
  - 市内 2 団体 216 名（真岡児童館 やさしクラブ、くまちゃん エコクラブ）が、こどもエコクラブに登録・活動しており、市は事務局として連絡仲介、広報支援などを行いました。
  - 真岡児童館やさしクラブが平成 30 年度こどもエコクラブ「全国エコ活コンクール（壁新聞部門）」において、三井住友銀行賞を受賞しました。

- ・市民活動推進センターでは、登録された環境学習活動団体の催し事開催等を支援します。
  - ☛ 9団体の催し事開催等を支援しました。

## ◎基本目標 4 みんなで考え行動するまち

### ○基本施策 4-2 環境保全活動の推進

#### ●施策 4-2-1 環境保全に関する情報の共有

##### 【施策の展開状況】

- ・環境基本計画に関する年次報告書を作成、公表し、環境に関する情報の共有を促進します。
  - ☛ 年次報告書を市内企業・団体等に配布するほか、市ホームページに掲載しました。
- ・環境に関する学習会や催し事、環境保全に関するボランティア活動の情報を「広報もおか」、「ウィークリーニュースもおか」及び市ホームページ、並びにケーブルテレビ等で提供します。
  - ☛ 随時、提供しました。また、市内だけではなく、県内や県外にも発信される配布物やメディアにも情報提供を行いました。

### ○基本施策 4-2 環境保全活動の推進

#### ●施策 4-2-2 各主体の環境保全活動の支援

##### 【施策の展開状況】

- ・地域や市民が安心して環境保全活動を行えるよう、市は市民ボランティア活動に関する保険制度により、万が一の事故に備えます。
  - ☛ 真岡市民または市内でボランティア活動を行っている方等に対して、傷害事故と賠償責任事故について補償しています。
- ・市民活動推進センターでは、登録された市民活動団体の情報発信や活動の支援を行います。
  - ☛ 市民活動推進センターでは、年4回発行される広報紙コラボにおいて登録された市民活動団体の情報提供を行うと共にその団体の活動を支援しました。
- ・その他：各主体による環境保全活動としては以下のようなものがあり、市役所は事務局をするなどして、活動を支援しました。
  - ☛ 「真岡の自然を守る会」は、真岡市公民館真岡西分館を拠点に活動しており、「春の七草摘みと七草粥作り」、「自然観察バス研修」を一般募集により実施しました。また、「春の七草寄せ植え」の市内小学校等への配布と、河川清掃と水辺の野鳥観察会を行いました。
  - ☛ 「真岡自然観察会」は、SAVE JAPAN プロジェクトに参加し、自然観察会や自然環境保全に関する啓発などの活動を行いました。
  - ☛ 「とちぎ元気な森づくり県民税事業」や「もおかの明るく安全な森づくり事業」では、地元住民で組織した管理団体により、下草刈りや清掃活動などの里山林の保管理作業が行われました。（施策 2-1-1 参照）
  - ☛ 地域公民館活動では、花いっぱい運動を実施し、71館が参加しました。



- 西沼地区と宿中地区とでは、多面的機能支払交付金事業に取り組んでいます。このうち、西沼地区では、生態系に配慮した水路の草刈り、生き物調査、田植えなどの体験学習、景観形成のための施設への植栽等を行いました。宿中地区では、水路・道路の草刈り、土水路等の保全を行いました。
- 真岡工業団地総合管理協会の環境部会では、隔週水曜日、五行川及び鬼怒川に排出する工業団地からの総合排水にかかる水質調査と、環境パトロール及び工業団地内の一斉清掃をそれぞれ年2回実施しました。
- 平成27年度に「全日本学校関係緑化コンクール」の学校林等活動の部で特選（農林水産大臣賞）、平成28年度に「全国緑の少年団活動発表大会」で第40回全国育樹祭大会会長賞（国土緑化推進機構理事長賞）を受賞した大内東小学校の学校林について、これを支援するPTAの管理活動が、平成28年度の「全日本学校関係緑化コンクール」で協力賞を受賞しました。市役所では、PTAの管理活動では実施が難しい藪の刈払いや枯死木の伐採を「とちぎの元気な森づくり県民税事業」を利用して行い、学校林をより活用しやすくしました。
- 長沼小学校において、平成20年から長きにわたって実施してきた探鳥会における野鳥や渡り鳥の生息状況の確認や環境整備の活動が高く評価され、2019年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰で「公益財団法人日本鳥類保護連盟会長褒状」を受賞しました。



大内東小学校の学校林を活用した環境学習



もおか児童館やさしクラブ  
「こどもエコクラブ 三井住友銀行賞」受賞



もおか環境パートナーシップ会議による  
環境保全ボランティア活動



もおか環境パートナーシップ会議  
「ふれあいの森づくり表彰 等」市長報告

## ○基本施策 4-2 環境保全活動の推進

### ●施策 4-2-3 協働による環境保全活動の推進

【環境指標】 (評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善)

指 標	平成 26 年度 基準	平成 30 年度 実績	令和元年度 現状・評価	令和 2 年度 目標	担当課
協働による環境保全ボランティア活動に関心のある市民の割合※1	44.2%	40.2%	39.2% 評価：▲	55%	環境課
自然環境の保全活動に参加している市民の割合※	12.5%	22.7%	22.5% 評価：◎	20%	

※1 令和 2 年度市民意向調査による (対象者 1,363 名)

#### 【施策の展開状況】

- ・市民、事業者、行政の協働による環境保全活動の推進を図ります。
  - 栃木県では、平成 28 年 3 月に「生物多様性とちぎ戦略」の改定を行い、平成 28 年度からの 5 ヶ年の後期重点プロジェクトの一つとして「人、地域、企業、団体等の協働推進プロジェクト」を掲げており、企業と地域住民・保全活動団体とのマッチングによる社会貢献活動の推進を目指しています。本市では、平成 18 年 2 月に市民、事業者、市の協働による環境保全活動を実現する「もおか環境パートナーシップ会議」を設立しました。
- ・「もおか環境パートナーシップ会議」の一層の機能強化を図り、環境保全活動を推進します。
  - 温室効果ガス排出量削減のため、生活の中で省エネ・低炭素型の「製品」、「サービス」、「行動」など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を国民一人ひとりに促す取組みである「COOL CHOICE」に参画しています。
  - 大久保地区モデル事業部会では、「自然ふれあい園“大久保”」で、市民と企業の協働により園内の保全管理、ホタルの飼育、里山林の管理、花や野菜の栽培、動植物の調査を行いました。

令和元年度の登録人員等：個人 61 名、企業 12 団体

令和元年度の活動参加人数：延べ 679 人（平成 30 年度：延べ 539 人）

- 環境学習推進事業部会では、地球温暖化をテーマにして、小学生親子を対象としたエコの大切さを学ぶ「夏休み環境学習会」と、環境展において自然エネルギーに関する学習会を開催しました。また、市内小中学校への環境学習 出前講座を実施し、12 校 858 名の生徒に対して地球温暖化やゴミ問題などの授業を行うことができました。

- エコ・レポーター部会では、継続的にごみの不法投棄現場の現地調査と、マイバックの持参率調査を行っており、環境展でその成果を公表しました。

令和元年度 調査店舗全体のマイバック持参率：40.4%

- 広報部会は、「自然ふれあい園“大久保”」の紹介リーフレットと、会報誌の作成を行いました。

- これまでの活動が認められ、令和元年度は環境生活文化機構主催の「2019 年 持続可能な社会づくり表彰」において、環境生活文化機構会長賞を受賞しました。また、国土緑化機構主催の「ふれあいの森づくり表彰」において、国土緑化推進機構理事長賞を受賞しました。